

科目名	教職実践演習（中・高） Practical Training for Teaching Profession						
科目担当者	柴田 博子 SHIBATA Hiroko / 渋山 昌雄 SHIBUYAMA Masao / 西田 若葉 NISHIDA Wakaba						
単位数	2	配当年次	4年	授業形態	演習	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 自由科目] 経営学部・経営学科 [専門教育科目 自由科目]				ディプロマポリシーとの関連	(5)(6)	
授業の概要	<p>本科目では、まず教職課程や教育実習の経験を振り返ることで、教員としての各人の課題を自覚する。そのうえで、必要に応じて不足している知識やより一層の向上が求められる技能等を補い、次の宮崎県教員育成指標における資質能力の向上・定着を目指す。</p> <p>1. 教職に必要な素養（使命感や学び続ける意欲、コミュニケーション力、組織や学級・学年経営等への貢献、地域や保護者への対応力、自己管理能力、危機管理やコンプライアンス意識の徹底等）、2. 学習指導、3. 生徒指導、4. 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒への対処、5. ICT や情報・教育データの利活用</p> <p>以上に基づき、教育実習を踏まえたグループ討議、現役の教員や外部講師による講義、教育現場における諸問題についての事例検討やロールプレイングを行う。</p>						
授業の到達目標	<p>①教職に必要な素養の重要性を理解し、自己の振り返りを踏まえた改善ができる。</p> <p>②各教科等の見方・考え方、学習指導要領や授業のイメージ、授業展開に必要な基礎スキル、授業改善の重要性や方法について理解する。</p> <p>③一人一人の生徒に向き合おうとする態度や信頼関係の構築等を踏まえた生徒指導ならびに学級・学校経営について理解する。</p> <p>④特別な配慮や支援を必要とする児童生徒に関する知識や対応方法について理解する。</p> <p>⑤情報機器を活用した教材作成や、児童生徒の情報活用能力を育成するための指導方法について理解する。</p>						
授業計画・内容	1	オリエンテーション・目標設定					
	2	授業指導の理解					
	3	生徒指導の理解					
	4	社会性や対人関係能力について					
	5	授業展開の確認					
	6	社会科教育の授業展開の検討					
	7	学力向上の方策①中学校社会科					
	8	商業科教育の授業展開の検討					
	9	学力向上の方策②商業					
	10	情報科教育の授業展開の検討					
	11	学力向上の方策③情報					
	12	学力の現状と課題					
	13	生徒指導の現状と課題					
	14	学校経営と学級経営					
	15	まとめと目標達成の評価					
授業外学修 (事前学修)	教育実践に関する情報や現状を調べ、知識を蓄えておく（毎週1時間程度）。 次回の授業内容と自身の課題を踏まえて、問題意識を明確化する（毎週1時間程度）。						
授業外学修 (事後学修)	毎回の授業を通して、初回に設定した課題がどのように解決されたのかを明確化する（毎週1時間程度）。 レポート作成に向けて、これまでの教職課程と本授業で学んだことを関連づけてまとめる（15時間程度。）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期試験（レポート）				40%	①～⑤	
	授業中の取り組みや課題				60%	①～⑤	
成績評価基準	<p>秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合</p>						
教科書	なし						
参考文献	適宜、資料を配布する。						
その他	履修前に教職履修カルテをすべて記入し、初回に実習記録と共に持参すること。						